

欧州 ～難民危機で揺らぐ欧州の結束～



経済調査部 主席エコノミスト 田中 理 (たなか おさむ)

内戦が続くシリアなどから欧州に難民が殺到

欧州連合(EU)諸国が急増する難民や移民にどう対処するかを巡って揺れている。政情不安が続く中東やアフリカから内戦や迫害を逃れ、地中海を渡って欧州に流入した庇護希望者は年初来で53万人を超えた。このところトルコ沿岸部からギリシャの島に渡る難民が急増している。ギリシャに漂着した難民の多くは、そのままバルカン半島を北上し、難民の受け入れに寛容とされるドイツやスウェーデンを目指す。不法入国を手助けする密航業者が各地で暗躍しているとされ、密航船の転覆事故で命を落とす惨事も相次いでいる。

深刻化する難民危機に対処するため、EUは向こう2年間で16万人のシリア、イラク、エリトリアからの難民を各国が分担して受け入れることを決定した。また、食料やシェルターなど人道支援の拡充、ギリシャやイタリアにEUが主導する難民登録機関を設置、EUの関連諸機関の人員増強、域外との国境管理を強化する方針を打ち出した。さらに、欧州に難民が殺到する事態の緩和を目指し、シリア難民を受け入れているトルコなど第三国への資金支援や連携強化、シリア情勢の安定に向けた外国努力や軍事行動の強化に取り組む。

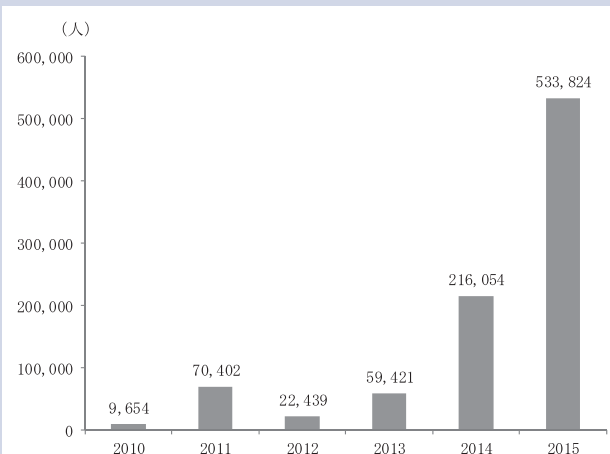
各国の政治体制やEUの枠組みを不安定化する

難民の受け入れ拡大や域外との国境管理費用の増加は、短期的にはEU諸国の財政負担となるが、難民の社会適応と労働力化に成功すれば、中長期的には欧州諸国が共通して抱える少子・高齢化問題の解決に貢献するとの見方が一般的だ。ただ、難民急増の影響はこうした経済的な側面ばかりではなく、EUの安定や結束を損なう恐れがある。

既に難民の受け入れ分担を巡ってドイツと東欧諸国の亀裂が表面化したほか、難民対応を巡ってクロアチアとセルビアの旧ユーゴスラビア諸国の間などで緊張が高まっている。また、十分な受け入れ体制が整っていないことを理由に、国境で入国検査を導入する国も現れ、EUの基本原則である「ヒトの移動の自由」が脅かされている。

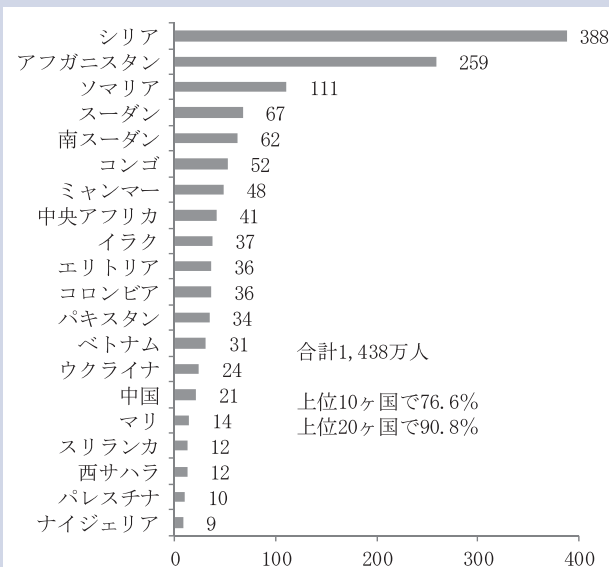
シリア情勢の早期安定化は望めず、欧州を目指す難民の数は今後も増加することが予想される。多くの欧州諸国では人道的な見地から難民受け入れを支持する世論が多数を占めているが、このまま難民の大量流入が続けば、受け入れ側の寛容姿勢が続くとも限らない。職や市民生活が脅かされるとの不安やテロへの脅威から、移民排斥を訴える極右政党の支持拡大につながる恐れがある。

資料1 地中海を渡って欧州に入った難民・移民数



(注) イタリア、ギリシャ、スペイン、マルタの合計。2015年は10月3日時点。
(出所) 国連難民高等弁務官事務所資料より第一生命経済研究所が作成

資料2 難民出身国の上位20ヶ国(万人、2014年末)



(出所) 国連難民高等弁務官事務所資料より第一生命経済研究所が作成